

予算事業の評価において、課題を見出すための5つの視点の主な内容は、以下のとおりです。

1 市民ニーズ・社会的役割

市がこの事業を実施することについて市民のニーズがあるか、又は啓発事業など社会的な役割があるか、市が積極的に関与すべきかという視点。

- (ア) 役割分担の観点から見て、市の関与のあり方は適切か。
- (イ) 社会状況の変化や時間の経過に伴い、事業の実施意義が薄れていないか。
- (ウ) 利用者や対象者の減少など、市民ニーズが低下していないか。

2 有効性

事業・施策に実効性を持たせているかという視点。

- (ア) この事業を進めることは、施策や管理事業の推進に効果があるか。
- (イ) 事業は目標どおりに進捗しているか。
- (ウ) 事業を縮小・廃止した場合の影響は大きいのか。
- (エ) 市民に説明できる具体的な効果を上げているか。

3 効率性

コストや時間の面で効率的に事業が進められているかという視点。

- (ア) 費用対効果は適正か。
- (イ) 迅速なサービスの提供に努めているか。
- (ウ) 他の事業・取組と連携して、事業の効率化を図っているか。

4 公平性

受益と負担のバランスは適正かという視点。

- (ア) サービスの対象範囲は適正か。
- (イ) サービスの水準は適正か。
- (ウ) 適正な受益者負担を求めているか。
- (エ) 公平性を確保するための取組をしているか。

5 持続可能性

事業の将来性についての視点。

- (ア) 事業開始当初と比べて、事業費や市負担が大幅に増大していないか。
- (イ) 今後、対象者の増加等で事業費や市負担が増大する傾向にないか。
- (ウ) 府内中核市（又は北摂各市）の類似事業と比較・分析しているか。
- (エ) 将来的に見て、現在の事業のあり方で、期待する事業効果を得ることができるか。